



日本ワクチン学会 ニュースレター

vol.30

目 次

1. 新年度を迎えてのご挨拶
理事長 岡部 信彦……………2
2. ワクチン関連トピックス
 - I) 『髄膜炎菌ワクチンについて』 ……………3
 - II) 『4価インフルエンザHA ワクチンについて』 ……………4
3. 第12回日本ワクチン学会高橋賞・第6回高橋奨励賞募集のご案内 ……………5
4. 会員会告
 - 1) 2016年度第1回理事会議事録(2016年4月19日) ……………6
 - 2) 2016年度第1回Vaccine誌編集委員会議事録(2016年4月19日) ……………9
 - 3) 2016年度第2回理事会議事録(2016年9月12日) ……………11
 - 4) 2016年度第2回Vaccine誌編集委員会議事録(2016年10月21日) ……………14

§ 新年度を迎えてのご挨拶

理事長 岡部 信彦

ワクチン学会会員の皆様、あけましておめでとうございます

本年もどうぞよろしく願いいたします

本来このニュースレターは、年度が変わって第1号が発行されているもので、通常は初夏に皆様にお届けしているものです。今回は、ニュースレター担当理事および事務局は若干の遅れはあったものの通常発行を目指しておりましたが、第20回の学術集會も終わり、年頭のご挨拶のようなニュースレターにまで遅れたのは、一重に理事長である私の投稿、最終チェックが遅れたためであり、まず会員の皆様に深くお詫び申し上げます。

年度はまたがっていますが、昨年(平成28年)1年もいろいろなことがありました。VPD(vaccine preventable disease)としては、定期接種としてワクチンが導入された Hib 感染症、肺炎球菌感染症、水痘についてはその報告数は激減し、疫学に大きな変化が見られてきています。一昨年(平成27年)WHOより麻疹排除(measles elimination)国として認定を受けた麻疹については、関東・関西方面でのアウトブレイクが平成28年夏にありました。かつてに比べればその規模は極めて小さいものでありましたが、measles eliminationの維持、針の穴からはじけるようなアウトブレイク拡大への警戒のため、各方面が努力されたため、関東方面で10数名、関西方面で数10名程度、2016年全体では156名の患者報告数に留まりました。関西方面のアウトブレイクに関連して、若者が多く集まる関東でのコンサート会場に麻疹を発症していた者が参加していた事が報告され一瞬ヒヤッとしましたが、最終的にコンサート参加者での発症者の報告は数名程度であったことは、特筆すべきことであると思います。おそらくは、現在の20歳前後の若者の多くは、MRの3期、4期接種を受け、herd immunityが高かったのではないかと推測している次第です。まさに日常の予防の重要性を示す出来事であったと言えると思います。一方、国際空港というentry pointを中心にした国内発生は、そこにいる人々自身の健康管理と輸入感染症の拡大防止という観点から、ワクチン接種者の対象としてハイリスクグループに加えるべきではないかとの考えが生じてきています。また大人へのMRワクチンの緊急接種がアウトブレイクの周辺では必要であったことに加えて、「心配だから」との大人のワクチン接種希望者が全国的に急増してMRワクチンの供給不足に陥ったことなど、ワクチンの生産・流通にかかわる課題も生じました。

平成28年10月には、B型肝炎ワクチンの定期接種が開始されました。HBワクチンの定期接種化は、従来のわが国の母子感染予防対策方法に何らかの欠点があり軌道修正を行うというのではなく、わが国はselective immunizationで母児感染によるキャリア化は激減しており世界に誇る緻密な方法であったといえますが、今回の定期接種化によりHB対策がさらにすすみ、これからのわが国の子どもたちからHBVによる慢性肝炎・肝硬変・肝癌の発生が消滅していくことが期待されます。

HPV問題は残念ながらいぜん膠着状態といってもいいような状況に陥ってしまっていますが、予防接種関連15学術団体の集まりである予防接種推進専門協議会では非会員である2団体を含めた17団体より「この2年半に本ワクチンの有害事象の実態把握と解析、ワクチン接種後に生じた症状に対する報告体制と診療・相談体制の確立、健康被害を受けた接種者に対する救済、などの対策が講じられたことを受けて、(子宮頸がん予防の観点から)本ワクチンの積極的な接種を推奨する。」との見解を平成28年4月に公表しています。本学会は、学会独自としてはこの問題にメッセージを出しておりませんが、予防接種推進協議会の声明には、協議会メンバーとして賛意を示しています(http://vaccine-kyogikai.umin.jp/pdf/20160418_HPVC-vaccine-opinion.pdf)。

さて、平成28年には国内ワクチンメーカーのGMP違反が明らかとなり、国による行政処分が行われたという大きな事件がありました。幸いに当該メーカーより生産されていたワクチンの効果・安全性の問題にかかわる部分ではないことも公表されましたが、一般の方々におけるワクチンの信頼性に多大な影響を及ぼしたことは事実です。当該メーカーのみならず国内のワクチンメーカー全体が襟を直し、見直しを行い、世界に向けて誇ることできる効果・安全性の高いワクチンを世に出していただきたいと切望する次第です。

本会の特色は、設立当初より基礎研究者、臨床医、製造・開発研究者、疫学研究者などの多様な分野の研究者が集まり、効果が高く安全に使えるワクチンの開発及び臨床への対応を目的としているところです。残り少なくなりましたが平成28年度、そして年が明けた平成29年も、我が国におけるワクチン学的发展と、人々のより健康な暮らしのため、会員の皆様の活発な活動とご支援を、改めましてどうぞよろしく願いいたします。

§ ワクチン関連トピックス

トピックス I

髄膜炎菌ワクチンについて

国立感染症研究所
神谷 元

2014年7月に4価髄膜炎菌結合型ワクチンワクチン（商品名：メナクトラ®筋注）の製造販売が承認され、2015年5月から接種可能となった。本ワクチンは、4種類の髄膜炎菌莢膜多糖体（血清型群 A, C, W, Y）がジフテリアトキソイドに結合されているコンジュゲートワクチンであり、多糖体ワクチンと比較し、獲得抗体は高く、効果は長期にわたり持続する。

接種スケジュールは、2歳から55歳の間に1回、0.5mLを筋肉内接種であるが、髄膜炎菌感染症に感染する危険性が高い場合（米国や英国など海外への留学予定で、特に入寮する場合や、アフリカの「髄膜炎ベルト」と呼ばれるサハラ以南の地域に渡航する際など）はこの限りではない。ちなみに、米国では侵襲性髄膜炎菌感染症の発症率が10歳代後半から20歳代にかけて高いため、11～12歳で1回、16歳で追加接種を実施している。国内では、発作性夜間へモグロビン尿症、非典型溶血性尿毒症症候群の治療薬であるエクリズマブ（商品名：ソリリス®点滴静注）治療の対象者に保険給付が認められている。国内での臨床試験における髄膜炎菌ワクチン接種後の副反応は、接種部位の変化、全身の症状いずれも出現率は低く、早期に消失している。

髄膜炎菌（*Neisseria meningitidis*）は1887年にWeichselbaumによって、急性髄膜炎を発症した患者の髄液から初めて分離された。大きさは0.6～0.8 μm、グラム陰性の双球菌で、非運動性である。患者のみならず、健常者の鼻咽頭からも分離される。人以外からは分離されず、自然界の条件では生存不可能である。莢膜多糖体により少なくとも12の血清群に分類され、このうち主に6血清群（A,B,C,X,Y,W）が侵襲性髄膜炎菌感染症を引き起こす。従って、メナクトラ®を接種しても、ワクチンに含まれる血清群（A,C,W,Y）以外の血清群による髄膜炎菌感染症に対する予防効果は認めない。そのため、侵襲性髄膜炎菌患者を診断した場合、検体を確保し、血清群を確定することは、ワクチンの効果を評価する上で非常に重要である。なお、2015年5月より侵襲性髄膜炎菌感染症（菌血症を含む）患者を診断した医師は、患者の氏名・住所等の個人情報を含め、ただちに保健所に報告しなければならないと感染症法上の取り扱いが変更された（変更前は7日以内）。

侵襲性髄膜炎菌感染症は、本邦では患者報告数は少ないものの、発症すると24～48時間以内に急速に進行し死に至る可能性のある重篤な疾患である。髄膜炎菌は低頻度（本邦の成人で0.4-0.8）ではあるが健康人の咽喉に保菌され、保菌者や患者から飛沫感染で伝播する。難しい点は、髄膜炎菌を保菌していても全く症状が出ない人から死亡など極めて重症化する症例まで臨床症状が幅広く、誰がどのような症状を呈するかは事前にはわからない点である。また、昨年国内で行われた国際マスギャザリングのイベントでは参加者の複数が同じ株で侵襲性髄膜炎菌感染症を発症しており、国内の患者数が少なくとも必ずしも感染のリスクが低いわけではない。幸い、現時点では髄膜炎菌は抗生剤に感受性が高いため、特にリスクの高い人（集団）では、認可されたワクチンを接種して予防対策を行い、万が一発症した場合早期診断、早期治療を行うことが今後の侵襲性髄膜炎菌感染症対策となる。

トピックス II

4 価インフルエンザ HA ワクチンについて

一般財団法人阪大微生物病研究会
通山 哲郎

周知のとおり、季節性インフルエンザワクチンに含まれるワクチン株は、一昨年の 2014/15（平成 26 年度）シーズンまでは、A 型 2 株（H1N1 亜型および H3N2 亜型）と B 型 1 株（山形系統あるいはビクトリア系統の何れか一方のみに由来する株）の 3 株で構成された 3 価ワクチンが主体であった。一方、近年のインフルエンザの流行状況は、A(H1N1)pdm09 および A(H3N2) の流行とともに、B 型は両系統（山形／ビクトリア）のウイルスが混合した流行が国内外で認められていた。このため WHO は 2012/13 シーズン（南半球向け）から 4 価ワクチンとして A 型 2 株に加え B 型両系統から各々ワクチン製造株を推奨した。これにより B 型各系統に対する免疫の獲得が可能になり流行株との不一致を解消させることが期待された。また米国では 2013/14 シーズンから 4 価ワクチンが順次供給され、世界の動向は 3 価から 4 価へと移行していた。

わが国でも 4 価ワクチン導入に向け、2013 年 1 月から厚生労働省、国立感染症研究所及び業界（国内ワクチン製造所 4 社）で産官協同による具体的な協議が開始された。その中では、①ワクチンの品質管理試験のうち、有効性にかかる抗原量を測定する力価試験方法（SRD 法*）、②生物学的製剤基準の一部変更（たん白質含量試験）、③安全性にかかる臨床成績（小児、成人）等が検討された。その後、生物学的製剤基準が改訂（平成 27 年 3 月 30 日）されるとともに、各メーカーは医薬品製造販売承認事項の一部変更申請等、薬事的手続きを行った。これと併行して「インフルエンザワクチン株選定のための検討会議」等で 4 価ワクチン製造株が検討された。製造株の選定は①ワクチン接種後のヒト血清の抗体保有状況、②ワクチン製造候補株と流行株との反応性（抗原解析・遺伝子解析）、③卵馴化による抗原性への影響、④国内ワクチン製造所（4 社）における製造効率（増殖性、たん白収量等）といった多方面からの検討がなされた。その結果、厚生労働省より 2015/16（平成 27 年度）シーズンでは 4 価インフルエンザ HA ワクチン製造株として A 型 2 株：A/カリフォルニア/7/2009(X-179A) (H1N1)pdm09 と A/スイス/9715293/2013(NIB-88) (H3N2)、B 型 2 株：B/プーケット/3073/2013（山形系統）と B/テキサス/2/2013（ビクトリア系統）が決定（平成 27 年 5 月 8 日通知）された。

国内ワクチン製造所（4 社）では通知に従い、各株のワクチン原液及び小分製品を製造し、それらの国家検定が合格した後、4 価インフルエンザ HA ワクチンを市場に供給するに至った。以上のような多段な過程を経たものの、産官の連携、かつ、関連する医療関係者等の協力の成果として、4 価ワクチンの早期導入が実現した。

なお、2016/17（H28 年度）シーズンのワクチン製造株については A(H3N2) が変更となり、厚生労働省より以下のとおり決定された（平成 28 年 6 月 7 日付 健発 0607 第 19 号通知による）。

A 型株

- ・ A/カリフォルニア/7/2009 (X - 179A) (H1N1) pdm09
- ・ A/香港/4801/2014 (X - 263) (H3N2)

B 型株

- ・ B/プーケット/3073/2013（山形系統）
- ・ B/テキサス/2/2013（ビクトリア系統）

* SRD 法：Single radial immunodiffusion（一元放射免疫拡散）法

参考資料

1. 平成 27 年度（2015/16 シーズン）インフルエンザワクチン株の選定経過：
病原微生物検出情報 IASR Vol.36 p.217-220（2015 年 11 月号）
2. 予防接種に関する Q & A 集 2015（平成 27 年） p.189-195：一般社団法人日本ワクチン産業協会

§ 第 12 回日本ワクチン学会高橋賞・第 6 回高橋奨励賞募集のご案内

2017 年日本ワクチン学会第 12 回高橋賞・第 6 回高橋奨励賞の候補者を公募いたします。応募希望者は下記の要綱に従ってご応募下さい。

応募期間：2016 年 11 月 1 日（火）～2017 年 3 月 31 日（金）必着
※必ず配達記録の残るものでご応募下さい。

応募書類送付先：〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号新宿ラムダックスビル
（株）春恒社学会事業部内 日本ワクチン学会係
TEL：03-5291-6231/FAX：03-5291-2176

1. 本賞の趣旨

日本ワクチン学会高橋賞は、高橋理明先生の開発された水痘ワクチンが、財団法人（現 一般財団法人）阪大微生物病研究会によりほぼ全世界で実用化された事を記念し創設された。創設にあたり、同財団より高橋記念基金が当学会に寄贈された。日本ワクチン学会高橋賞は、本学会の創立趣旨に沿って学問的・実学的に卓越した貢献をされた方を授賞の対象とする。

2. 対象者

- 1) 本賞は本学会の創立趣旨に沿ってワクチンに関する基礎研究、臨床応用、製造開発、疫学研究において卓越した貢献をされた方を授賞の対象とし、学術功労賞である「高橋賞」と、若手奨励賞である「高橋奨励賞」の二つの賞を設置する。
- 2) いずれの賞も原則として本学会会員とする。
- 3) 「高橋賞」は、年齢制限を設けない。若手奨励賞である「高橋奨励賞」は 2017 年 1 月 1 日時点で 45 歳未満の者を対象とする。

3. 応募方法

以下の書類を揃えて（株）春恒社学会事業部内 日本ワクチン学会係まで、2017 年 3 月 31 日（金）までに必着でお送り下さい。

- 1) 本会所定の申請書【原本とコピー 7 部を添付】
- 2) 研究業績の要約（高橋賞 2,000 字以内、高橋奨励賞 1,000 字以内）【原本とコピー 7 部を添付】
- 3) 研究業績リスト（別紙 1 枚以内）【原本とコピー 7 部を添付】
- 4) 関連研究業績別刷（5 編以内）各 8 部
- 5) 自薦の場合には本人の研究についての抱負、他薦の場合は本学会会員の推薦状 1 通（双方ともに A4 版 1 枚まで）【原本とコピー 7 部を添付】

※ 1)～5) までを 1 セットとし、計 8 部を送付すること。

※ 研究業績の要約の文中に、関連論文（研究業績リスト）の論文番号を記入すること。

※ 応募書類は、当学会ホームページ（<http://www.jsvac.jp/>）よりダウンロードすること。

4. 選考と発表

- 1) 選考は理事長に加えて理事会で承認された学会員 6 名の合計 7 名で構成する選考委員会で行い、委員会での決定事項は理事会での承認を必要とする。

なお、受賞者が選考委員会で決まらなかった場合は理事全員の意見を求める。

- 2) 受賞は原則毎年3名とし、高橋賞1名、高橋奨励賞2名とする。
- 3) 日本ワクチン学会総会にて理事長より盾及び副賞（高橋奨励賞は賞状及び副賞）を授与する。
- 4) 高橋賞および高橋奨励賞受賞者は総会において記念講演を行うとともに当学会が指定する刊行物に総説を発表する。
- 5) 高橋奨励賞受賞者は翌年度の Vaccine Global Congress の JSV 枠プログラムに参加し発表を行うことが望ましい。
- 6) 受賞者には2017年8月末までに通知を行う予定。

以上

§ 2016年度第1回日本ワクチン学会 理事会議事録

日 時：2016年4月19日（火）16：00～18：00

場 所：AP品川 10階 ルーム F+G

出席者：【理 事 長】岡部信彦

【理 事】大石和徳、岡田賢司、神谷 元、喜田 宏、五味康行、西條政幸、谷口孝喜、
通山哲郎、長井正昭、西村直子、森 康子

【推薦理事】多屋馨子

【理事資格】武下文彦[第20回学術集会会長]

【監 事】倉根一郎、宮崎千明

【記 録】稲田至朗[(株)春恒社]

欠席者：城野洋一郎、齋藤昭彦（理事）石井 健、中山哲夫（推薦理事）

議事に先立ち、庵原俊昭先生の逝去が報告され黙祷を捧げた。

1. 報告事項

1) 前回議事録の確認

岡部信彦理事長から2015年度第3回および第4回理事会議事録が提示され、異議なく承認された。

2) 一般経過報告

事務局から2016年3月31日現在の会員数の現状を含む会員異動報告がされた。

3) 2015年度会計決算報告

喜田宏財務担当理事から2015年度一般会計および高橋記念基金の決算報告がされた。続いて宮崎千明監事から監査報告書が提示され適正に運用されていることを確認したことが報告された。各位異議なく承認した。

4) 第19回日本ワクチン学会学術集会報告

西村直子理事から以下報告された。有料参加者は698名、招待者を含めると約800名であった。

会 期：2015年11月14日（土）～11月15日（日） 会 場：名鉄犬山ホテル

余剰金のうち251,840円を2015年12月に、2,363,961円を2016年2月に学会へ寄附した。

5) 第20回日本ワクチン学会学術集会報告

武下文彦会長より第20回の開催準備の進捗状況が報告された。演題募集期間は2016年4月25日から6月30日までを予定している。

6) 第21回日本ワクチン学会学術集会報告

岡田賢司次期会長より以下の通り報告された。

会 期：2017年12月2日（土）3日（日） 会 場：福岡国際会議場（福岡市）

7) Vaccine誌編集委員会報告

西條政幸委員長より2016年度第1回Vaccine誌編集委員会の報告がされた。新委員選出を行い、石井 健先生、神谷 元先生、谷口清州先生、中野貴司先生、西村直子先生が推薦された。就任依頼状を後日送ることとした。Vaccine誌では原著論文の掲載を行っていないが、JSV 枠の50ページを活発に使用するため、次回のエルゼビア社との契約更新の際に、原著論文を掲載する内容とすることが西條委員長より提議され、継続して審議を重ねていく。第20回学術集会の演者等に執筆依頼を行う予定である。

8) ニュースレターについて

大石和徳理事からVol.30の掲載内容について報告された。

1. 新年度を迎えてのご挨拶（理事長 岡部信彦）
2. ワクチン関連トピックス
 - I) 「髄膜炎菌ワクチンについて」（神谷 元）
 - II) おたふくかぜの流行について（砂川富正）
 - III) 「4価インフルエンザHA ワクチン」について（通山哲郎）
3. 第20回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ（武下文彦）

9) 広報委員会報告

事前にメールで回覧した学会ホームページリニューアルにかかる見積書が提示された。次回理事会までに広報委員会が主体となり具体的に進めていく。続いて広報委員会委員長の選出を行った。互選により西村直子理事が選出された。

10) 高橋賞応募状況報告

岡部信彦理事長から2016年度第11回高橋賞および第5回高橋奨励賞候補者について以下の通り報告された。

■第11回日本ワクチン学会高橋賞候補者（1名）

羽田 敦子 先生（公財）田附興風会医学研究所 北野病院 小児科・感染症科 部長

「高齢糖尿病患者における水痘ワクチンの有効性の検討 一二重盲検プラセボ対照ランダム化比較試験」

推薦者：自薦

◆第5回日本ワクチン学会高橋奨励賞候補者（2名）

大藤 さとこ 先生 大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学 准教授

「ハイリスク集団におけるインフルエンザワクチンの免疫原性・有効性評価」

推薦者：廣田 良夫 先生（保健医療経営大学 学長）

鈴木 忠樹 先生 国立感染症研究所 感染病理部 室長
「粘膜ワクチンで誘導される分泌型 IgA 抗体の多量体構造と機能の解析」
推薦者：長谷川 秀樹 先生（国立感染症研究所 感染病理部 部長）

11) ワクチン推進ワーキンググループ活動報告

中山哲夫理事が欠席の為、岡田賢司理事から、第一三共（株）、サノフィ（株）と進めている4種混合ワクチン（以下、DTaP-cIPV）追跡調査の進捗状況について報告された。先行2社の4混（DTaP-sIPV）の抗体価の追跡調査はAMED 研究班（大石班）で継続中である。北里第一三共ワクチンの4混（DTaP-cIPV）はワクチン学会のワーキンググループで実施し、2015年度で4歳児の調査が終了（n=47）した。調査結果の公表については、規約上の配慮が要求されている。2016年度は5歳児の調査のためのエントリーを始めている。現在半数近くがエントリーしている。脱落症例は1例である。

12) 予防接種推進専門協議会活動報告

岡部信彦理事長より、本理事会直前に持ち回り理事会にて承認した予防接種推進専門協議会からの“HPV ワクチン接種推進に向けた関連学術団体の見解”が提示された。すでに持ち回り理事会で承認されており、近日中に本会ホームページに公開することが報告された。

13) 全国公衆衛生関連学協会連絡協議会

報告事項なし。

14) COI 規定について

岡田賢司、五味康行理事から COI 規定案が提示された。活発に議論され次回理事会に修正案を提示する。運用開始する時期は第21回学術集会を目標とした。

15) HPV ワクチン接種推進に向けた関連学術団体の見解

議題 12) で審議した。

16) 「ワクチン」編集の進捗状況

岡部信彦理事長より「ワクチン」の編集状況が説明された。4月中に原稿がすべて入稿し、査読終了は5月末を予定していて、最終原稿は6月末を予定している。

2. 審議事項

1) 第11回高橋賞、第5回高橋奨励賞選考

岡部信彦委員長より、高橋賞選考委員会の選考結果が報告された。高橋賞は受賞者なし、高橋奨励賞は大藤さとこ先生、鈴木忠樹先生ともに受賞者として理事会に推薦することとした。

今年度の高橋賞については委員会で継続審議を行うこととした。この報告を受けて審議した結果、高橋奨励賞候補者の2名を受賞者として承認した。

2) 高橋賞選考委員会委員の一部改選について

高橋賞選考委員3名の改選にあたり選挙を行い、大石和徳先生、岡田賢司先生、森康子先生が上位得票となり、承認された。

3) トラベルアワードについて

岡部信彦理事長より、本年も昨年同様にトラベルアワードを公募することが提議された。各位異議なく承認した。詳細は国際学会の情報が整い次第検討を行う。

4) MSD 株からの後援依頼の件

MSD 株が主催する「女性＝健康」プロジェクト・第3回シンポジウム「女性のための予防医療」の開催要旨が提示された。プログラムが確定していないことと、1社が主催となるため本件は辞退することで合意した。今後も同様の後援依頼があることが予想されるので、規約を作成することとした。次回理事会で規約について審議を行う。

5) 多年度会費滞納者の退会処分について

3年以上会費滞納者（33名）の一覧が提示され、例年通り滞納者に再度会費請求（5月末）発送を行い本年6月末日までに入金のない場合は、退会処分とすることが承認された。

3. その他

- ・倉根一郎監事より一般会計における繰越金の取り扱いを検討することが提議された。2015年度決算で一般会計の次年度繰越金が27,998,509円となり、学会年間予算の約3年分となっている。会費を値下げすることや、トラベルアワードなどで会員に還元できるように運営していく必要がある。引き続き審議を行うこととした。
- ・理事会前に城野洋一郎理事から岡部信彦理事長に辞任の意向が伝えられた。理事会としての意見をまとめるため審議を行った。城野理事からはこれまでの化血研の一連の不祥事を鑑み、辞任したいと申し出がされているが、一会員として理事に選出されており、化血研を代表して理事を務めている訳ではない。従って理事会としては化血研の不祥事と城野先生が理事を務めていることは関係がなく、責めを負う必要はないと考える。ただ、城野理事は化血研の常務理事という立場があるので、ご本人の強い意向として辞任届を提出された場合は、理事会として受理することとした。理事会の意向を岡部理事長から城野理事へ伝えたくて、城野理事の意思を再度確認することとした。城野理事が熊本の震災で被災している状況を考慮するとすぐには連絡が出来ないが、様子を見て岡部理事長から連絡することとした。
- ・次回理事会は8月下旬から9月上旬に開催することとした。

以上

2016年4月19日
日本ワクチン学会
理事長 岡部 信彦

§ 2016年度第1回日本ワクチン学会 Vaccine 誌 編集委員会 議事録

日 時：2016年4月19日（火）15：00～16：00

場 所：AP品川 10F ルーム H

出席者：西條政幸（委員長）、森 康子、大石和徳、多屋馨子、岡部信彦（ワザバ） 稲田（事務局）

欠席者：城野洋一郎、中山哲夫

1. 前回議事録の確認

西條政幸委員長から前回議事録についての報告がされ、修正事項があれば本委員会終了までに申し出るよう要請があった。申し出はなく承認された。

2. Special Issue from JSV について

西條政幸委員長のもとに Special Issue from JSV の冊子が5部送られてきたので、学会保管分とすることが報告された。学会として10冊購入する予算を組んでおり、寄贈先は編集委員会、理事会の意見を含め検討を行うこととした。

3. 今後の掲載予定・執筆依頼について

前回委員会からの依頼論文の進捗状況の確認を行い、以下4編がエルゼビア社に入稿された。

- 1) No.82 横倉義武先生（第18回特別講演）より予防接種の健全な普及への取り組み
- 2) No.88 宮入 烈先生（第18回教育セミナー3）より免疫不全者への予防接種 ～固形臓器移植患者と免疫抑制薬使用中患者を中心に～
- 3) No.89 吉川哲史先生（第18回教育セミナー5）より 水痘ワクチン定期接種化：その効果と今後の課題
- 4) No.99 浅野喜造先生 / 尾崎隆男先生（第19回特別講演）水痘ワクチンの開発史と未来

No.87 廣田良夫先生（第18回（シンポジウム2より Vaccine epidemiology: Principles and Methods とりまとめ）は、入稿間近の連絡が事務局にあった。

No.81 中野貴司先生（沈降インフルエンザワクチン（H5N1 株）の安全性と免疫原性：神谷齊先生研究データの論文化）についてはリマインドすることとした。

今後の執筆依頼は前回同様に学術集会前に行う。プログラムが確定次第委員会で検討を行うこととした。

4. 「Vaccine 誌」原著論文の掲載について

Vaccine 誌では原著論文の掲載を行っていないが、JSV 枠の50ページを活発に使用するため、今回のエルゼビア社との契約更新の際に、原著論文を掲載する内容とすることが西條委員長より提議された。後日メールでさらに審議を行うこととした。その結果を理事会に報告することとした。

5. Vaccine 誌編集委員の選出

石井 健先生、神谷 元先生、谷口清州先生、中野貴司先生、西村直子先生が推薦され、各位異議なく了承した。後日推薦された5名に就任依頼を送付することとした。

以上

2016年4月19日（火）
日本ワクチン学会
Vaccine 誌編集委員会
委員長 西條 政幸

§ 2016年度 第2回 日本ワクチン学会 理事会議事録

日 時：2016年9月12日（月）16：00～18：00

場 所：AP品川 10F ルーム F+G

出席者：【理事 長】岡部信彦

【理 事】大石和徳、岡田賢司、喜田 宏、城野洋一郎、五味康行、西條政幸、谷口孝喜、
通山哲郎、長井正昭、西村直子、森 康子

【推薦理事】多屋馨子、中山哲夫

【理事資格】武下文彦〔第20回学術集會会長〕

【監 事】倉根一郎

【記 録】稲田至朗〔（株）春恒社〕

欠席者：神谷 元、齋藤昭彦（理事）石井 健（推薦理事）宮崎千明（監事）

1. 報告事項

1) 前回議事録の確認

岡部信彦理事長から2016年度第1回理事会議事録が提示され、異議なく承認された。

2) 一般経過報告

事務局から前回理事会から2016年9月6日までの会員異動報告がされた。

3) 2016年度会計中間報告

喜田宏財務担当理事から2016年度一般会計の1月1日から7月31日までの会計報告がされた。

4) 高橋賞報告

岡部信彦理事長より今年度の高橋賞、高橋奨励賞の受賞者決定までの経過が報告された。

・第11回日本ワクチン学会高橋賞受賞者・受賞研究題名

平山 宗宏 先生（東京大学名誉教授）

「ポリオ生ワクチン導入に始まる各種ワクチンの評価、感染症サーベイランス事業等に関する研究」
メール理事会で6月16日付承認した。

・第5回日本ワクチン学会高橋奨励賞受賞者・受賞者

大藤 さとこ 先生（大阪市立大学大学院医学研究科公衆衛生学 准教授）

「ハイリスク集団におけるインフルエンザワクチンの免疫原性・有効性評価」

鈴木 忠樹 先生（国立感染症研究所 感染病理部 室長）

「粘膜ワクチンで誘導される分泌型IgA抗体の多量体構造と機能の解析」

4月19日開催の理事会にて承認した。

5) 第20回日本ワクチン学会学術集會報告

武下文彦会長より第20回の開催準備の進捗状況が報告された。2016年10月22日（土）23日（日）
に京王プラザホテルで開催する。

6) 第21回日本ワクチン学会学術集會報告

岡田賢司次期会長より以下の通り報告された。

会 期：2017年12月2日（土）3日（日） 会 場：福岡国際会議場

7) Vaccine 誌編集委員会報告

報告事項なし。

8) ニュースレターについて

大石和徳、通山哲郎理事から Vol.31 の掲載内容について報告された。

1. 第20回日本ワクチン学会学術集会を終えて 第20回学術集會会長 武下 文彦
2. ワクチン関連トピックス
 - I. 麻疹
 - II. B型肝炎
3. 第12回日本ワクチン学会高橋賞・第6回高橋奨励賞募集のご案内
4. 会員会告

9) 広報委員会報告

西村直子理事からホームページリニューアルについての広報委員会の下記意見が述べられた。
閲覧対象者や情報発信レベルは、学会員を対象とする。

1. ワクチンを取り巻く予防接種および審査行政に関する情報のシェア

- 1 ニュースレターに掲載されているワクチン関連トピックスを活用する
- 0 ワクチン関連トピックスのページを設けて HP にも掲載していく
- 1 厚生労働省・ワクチン関連の協議会等へのリンクページを設置
- 0 感染症学会や小児感染症学会の HP を参考にして、最新のトピックス的なものを広報委員会で抽出して掲載する

2. 基礎研究ならびに臨床研究の成果・情報のシェア

- 1 どのような内容が求められているのか再検討が必要である
- 0 学術集会のシンポジウムや高橋奨励賞の発表スライドを演者の了承を得て掲載
- 0 学術集会記録にプログラムおよび要旨の掲載を検討してはどうか

3. 若手研究者の育成および研究費を獲得する活動の場としてのコンテンツの充実

- 1 研究・人材育成プログラム紹介のページを充実させる
- 0 ワクチン関連の Grant についてニュースレターを活用して会員から募集をする

1. と 3. については異議なく承認した。2. について審議を行い学術集会のシンポジストおよび高橋賞、高橋奨励賞受賞者の発表スライドと抄録を学会ホームページに掲載することとした。シンポジストには大会長から、高橋賞、高橋奨励賞受賞者には理事長から依頼を行う。ホームページに掲載するスライドについては、学術集会終了後に各演者から事務局に提出してもらい適宜学術集会記録にアップしていく。

10) ワクチン推進ワーキンググループ活動報告

中山哲夫理事から4種混合ワクチン追跡調査について報告された。

11) 予防接種推進専門協議会活動報告

報告事項なし。

12) 全国公衆衛生関連学協会連絡協議会

報告事項なし。

2. 審議事項

1) 第 22 回、23 回学術集會会長選出の件

岡部信彦理事長から第 22 回学術集會会長に森 康子理事（神戸大学）、第 23 回学術集會会長に多屋馨子理事（国立感染症研究所）が推薦され承認された。

2) トラベルアワードについて

今年度のトラベルアワードはまだ応募を開始していない。対象となる国際学会があれば応募を開始することとした。

3) 韓国ワクチン学会との連携、派遣について

近年行っている韓国ワクチン学会（KVS）との連携の中で、KVS の学術集會で日本ワクチン学会のセッションを設けてもらっている。今回は前回第 19 回会長である尾崎隆男先生に講演をお願いした。岡部信彦理事長より、今後 KVS から講演を含む招待を受けた場合は当年度の会長を派遣し、学術集會の報告を含んだ講演を行うことが提議された。各位異議なく了承した。

また、第 20 回学術集會においては KVS から 2 名の先生を招待し講演してもらう。昨年同様に旅費は学会負担とし、その他宿泊、会長招宴、懇親会費等は大会長が負担する。今後も同様に連携を行っていく。

4) HPV ワクチンに対する意見書の件

薬害オンブズマンパースン会議から送られた「ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチン（子宮頸がん予防ワクチン）接種推進に向けた関連学術団体の見解」に対する意見書が提示された。本件に関して予防接種推進専門協議会はすでに対応しないこととしているため、本会としても対応しないことで合意した。

5) COI 規定について

岡田賢司、五味康行理事から前回理事会で審議した内容を反映した COI 規定案が提示された。審議の結果、最終調整を行い次回理事会で承認することとした。

6) 医学会の件

次回理事会で入会資格資料を含めて審議する。

3. その他

・各種 Award について

第 3 回イノベーター・オブ・ザ・イヤーの候補者推薦のお願い、第 13 回ヘルシー・ソサエティ賞候補者推薦のお願いが届いた。今後このような依頼に対しては理事長と広報委員会が候補者推薦を行うか否かの検討を行うこととした。候補者の選出については理事会承認事項とした。

・中山哲夫理事から「ワクチンの事典」の進捗報告があった。

・森康子理事から名誉会員の規約作成の提案があり、次回理事会の議題とした。

・岡田賢司理事から企業などから後援依頼があったときの規約や、将来的に学会誌を発刊したときのために転載許諾に関する規約を作成することが提議された。継続審議とした。

・次回会議は下記にて開催する。

第3回理事会

日時：2016年10月21日（金）16：30-18：30

会場：TKP 東京駅丸の内会議室（帝劇ビルB1）カンファレンスルーム4

以上

2016年9月12日
日本ワクチン学会
理事長 岡部信彦
庶務担当理事 岡田賢司

§ 2016年度第2回日本ワクチン学会 Vaccine 誌 編集委員会 議事録

日時：2016年10月21日（金）15：00～16：30

場所：TKP 東京駅丸の内会議室（帝劇ビルB1）ミーティングルームB

出席者：西條政幸（委員長）、森 康子、城野洋一郎、多屋馨子、中野貴司、中山哲夫、西村直子

（事務局）稲田、松村

欠席者：石井 健、大石和徳、谷口清州

1. 前回議事録の確認

西條政幸委員長から前回議事録についての報告がされ、修正事項があれば本委員会終了までに申し出るよう要請があった。申し出はなく承認された。

2. 今後の掲載予定・執筆依頼について

前回委員会からの依頼論文の進捗状況の確認を行い、以下7編がエルゼビア社に入稿された。

- 1) No.100 庵原俊昭先生 / 吉川哲史先生（第19回シンポジウム1）より
「ワクチン発展のために臨床家は何かができるか」
- 2) No.101 渡辺正博先生（第19回学術集会）より
「水痘・ムンプス・ワクチン接種後罹患の診断をどうするか～適正なサーベイランスをもとめて～」
- 3) No.102 西村直子先生（第19回学術集会）より
「病院勤務医から研究者へのフィードバック – 一人から得られる大切なエビデンス –」
- 4) No.103 吉川哲史先生（第19回学術集会）より
「ワクチン発展のために臨床家はなにができるか：大学臨床教室の役割」
- 5) No.104 城野洋一郎先生（第19回学術集会）より
「ワクチンメーカーとして臨床家に期待すること」
- 6) No.108 中山哲夫先生（第19回学術集会）より「詳しいメカニズムはわからないけど」
- 7) No.113 武下文彦先生（第19回学術集会）より「第20回学術集会アナウンスメント」

今後の執筆依頼は以下17編にすることとした。

- 1) 岡田賢司先生（第20回学術集会）より「第21回学術集会アナウンスメント」
- 2) 河岡義裕先生（第20回学術集会特別講演）より「インフルエンザならびにエボラワクチン」

- 3) 大藤さとこ先生 (第 20 回学術集会高橋奨励賞記念講演)
- 4) 鈴木忠樹先生 (第 20 回学術集会高橋奨励賞記念講演)
- 5) 石井健先生 (第 20 回学術集会シンポジウム 1) より
「アジュバントによるワクチンデザインと免疫療法への展開」
- 6) 櫻井和明先生 (第 20 回学術集会シンポジウム 1) より
「多糖 β グルカンを使った免疫細胞へのデリバリーシステムの構築」
- 7) Alaian Breca (第 20 回学術集会シンポジウム 1) より
「Current status on the development of GSK investigational herpes zoster HZ/su vaccine」
- 8) 清野宏先生 (第 20 回学術集会シンポジウム 1) より
「カチオン化ナノゲルデリバリーシステムを用いた次世代型経鼻ワクチンの開発」
- 9) 長谷川秀樹先生 (第 20 回学術集会シンポジウム 1) より
「経鼻インフルエンザワクチンと分泌型 IgA 抗体」
- 10) 松浦善治先生 (第 20 回学術集会シンポジウム 1) より「バキュロウィルスを用いたワクチン開発」
- 11) 中山哲夫先生 (第 20 回学術集会シンポジウム 1) より「ワクチン抗原で誘導される免疫能の検討」
- 12) 浦野勉先生 (第 20 回学術集会シンポジウム 2) より「感染症予防ワクチンの承認審査と課題」
- 13) 古川和明先生 (第 20 回学術集会シンポジウム 2) より
「細胞培養新型インフルエンザワクチン原液の生産プロセス開発とスケールアップ」
- 14) 山西弘記先生 (第 20 回学術集会シンポジウム 2) より「ワクチンの品質保証」
- 15) 岡田直貴先生 (第 20 回学術集会シンポジウム 2) より「経皮ワクチン製剤の実用化に向けて」
- 16) 大島英彦先生 (第 20 回学術集会シンポジウム 2) より
「皮内注射専用デバイス (Immucise) の実用化」
- 17) 岡部信彦先生 (第 20 回学術集会シンポジウム 3 & 特別企画) より
「予防接種法改正後のフォローアップ・国民のための予防接種のあり方」

3. エルゼビア社との契約更新について

エルゼビアとの契約が 2015 年までとなっていたので、後日事務局が確認することとした。契約更新の際には、従来から掲載してきた「総説」や「学会発表のまとめ」の記録 (論文) を掲載することを旨とするものの、原著論文も掲載できるようにするために契約内容を修正 (掲載される論文は従来の契約では「peer reviewed review article」とされているところを新規の契約書では「peer reviewed article」に修正できないか先方 (The Journal) と相談することとした。JSV 枠を従来通りの 50 ページにする内容とすることが西條委員長より提議され各位了承した。理事会に報告することとした。

以上

2016 年 10 月 21 日 (金)
日本ワクチン学会
Vaccine 誌編集委員会

日本ワクチン学会ニュースレター 第30号
2017 (平成 29) 年 2 月 20 日発行

発行人 日本ワクチン学会

日本ワクチン学会事務局
〒 210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町 3-25-13
川崎市健康安全研究所
日本ワクチン学会理事長 岡部 信彦
<http://www.jsvac.jp/>
<学会連絡先・入退会・住所変更・年会費>
〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号
新宿ラムダックスビル
(株) 春恒社 学会事業部内
日本ワクチン学会係
TEL : 03-5291-6231/FAX : 03-5291-2176/ E-mail : jsvac@shunkosha.com